

(資料1)

善行寺本堂、玄関座敷、鐘楼、太鼓楼、手水舎、山門（ぜんぎょうじほんどう、げんかんざしき、しょうろう、たいころう、ちょうずしゃ、さんもん）

員数：6棟

所在地：名古屋市中川区愛知町

所有者：善行寺

【概要】

「善行寺本堂」

構造、形式及び大きさ：木造平屋建、瓦葺、建築面積 277 m²

建設年代：宝永3年(1706)／文化元年(1804)・昭和51年(1976)改修、大正4年(1915)増築

(登録基準：造形の規範となっているもの)

「玄関座敷」

構造、形式及び大きさ：木造平屋建、瓦葺、建築面積 108 m²

建設年代：江戸後期

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

「鐘楼」

構造、形式及び大きさ：木造平屋建、瓦葺、建築面積 7.6 m²

建設年代：明治29年(1896)頃／昭和53年(1978)改修

(登録基準：造形の規範となっているもの)

「太鼓楼」

構造、形式及び大きさ：木造平屋一部3階建、瓦葺、建築面積 50 m²

建設年代：江戸後期／昭和前期改修

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

「手水舎」

構造、形式及び大きさ：木造平屋建、瓦葺、建築面積 4.5 m²、手水鉢付

建設年代：昭和前期

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

「山門」

構造、形式及び大きさ：木造平屋建、瓦葺、間口 2.9m

建設年代：宝暦5年(1755)／江戸後期、昭和53年改修

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

善行寺は、真宗大谷派に属し、本堂に残存する棟札から、宝永3年(1706)までに旧名古屋郡米野村から現在の名古屋市中川区愛知町へ移転したことが分かる。

境内の中央やや北側に本堂が南面して建ち、本堂正面の境内南側に山門が建つ。山門の北西に手水舎、鐘楼堂が位置し、北東に太鼓楼が北面して建つ。また本堂側面に玄関座敷が付く。

本堂の創建は、小屋内に残存する棟札から、宝永3年(1706)に萩平左衛門(三代目伊藤平左衛門)によって建てられたことが分かる。また、小屋内には文化元年(1804)の修理棟札と考えられる棟札が残り、文化期の修理は七代目伊藤平左衛門によるものであることが判る。尾張藩作事方伊藤平左衛門の技術を知ることができる貴重な本堂である。

玄関座敷は、本堂の東に隣接する。正面の南端に式台玄関を置き、その奥北側に僧侶や門信徒の控えの間として使われる。寺の建物への出入口、本堂と庫裏を繋ぐ重要な施設で、全体的に簡素でありながら品格があり文化財価値は高い。

鐘楼は、山門の北西に近接し、袴型の石積基壇上に建つ。寺の記録によれば、明治29年(1896)に建設され、禅宗様を基調とし、細部にわたり意匠的に優れ貴重である。基壇石組には名古屋城築城時の残石であることを示す刻銘が残ることも、歴史的史料として貴重である。

太鼓楼は、山門北東近くに北面して建つ。1階は座敷を持つ居室とし、東端を倉庫とし、北西隅に太鼓楼部へ上がる出入口を階段室として設ける。2階はつし2階の物置で、壁で東西に分ける。北西隅の太鼓楼の出入口である階段室には、階段の痕が西面に残り、そこから2階物置へ上がり、更に階段によって太鼓楼部へ上がる。建築年代は、棟札等の記録が残らず不明であるが、軸組材の煤の付着状態等から江戸後期と考えられる。傷みは著しいが修理可能であり、太鼓楼が残存する寺院は少なく、貴重な建物である。

手水舎は山門の北西隣に位置し、本堂と山門を結ぶ参道横に建つ。小規模で簡素な造りではあるが、寛保3年(1743)の銘が入った古い手水鉢を有し、参道横で境内の出入口付近の景観を形成している。

山門は、本堂の正面、境内南側に南面して建つ。建築年代は、残存する棟札から宝暦5年(1755)の五代目伊藤平左衛門道房の作で歴史的価値があり、四脚門の形式で虹梁を重ねて用いるなど、丁寧な造りで意匠的にも優れている。



善行寺本堂 外観南側
(名古屋市教育委員会 提供)



善行寺玄関座敷 外観南側
(名古屋市教育委員会 提供)



善行寺手水舎及び鐘楼 外観北側
(名古屋市教育委員会 提供)



善行寺太鼓楼 外観北側
(名古屋市教育委員会 提供)



善行寺山門 外観南側
(名古屋市教育委員会 提供)